

# 地域包括支援センター、来年4月から11箇所に再配置

## 市当局は市議会や関係団体の声を十分聴かず推進

上越市はいま、第7期介護保険事業計画・第8期高齢者福祉計画づくりを進めています。それに伴い、地域包括支援センターについても再配置する方向で取組が始

まっています。活動レポート(1808号)でお知らせしたとおりです。地域包括支援センターは、高齢者が安心して暮らせるようにと、

管事務調査で3つの再配置案を示し、議会側の意見をある程度聞いてはいるものの、その後、10日ほどの間に再配置計画を正式決定し、運営法

人の募集を始めたのです。議会にはまったく通知なしでの進め方については6月議会で私が厳しく批判したところでした。

社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師などが力を合わせてケアマネジメント支援事業、総合相談支援事業、虐待防止など様々な活動をしています。それが、いま

や高齢者の生活支援の拠点となつています。それだけに、サテライト設置となる可能性が

ある地域を中心に「いままでどおりのサービスを受けられるのか」などの不安の声があり、再配置には慎重であつてほしいという声が上がつていました。

ところが、この取組については5月16日の市議会厚生常任委員会の所

見をある程度聞いてはいるものの、その後、10日ほどの間に再配置計画を正式決定し、運営法

人の募集を始めたのです。議会にはまったく通知なしでの進め方については6月議会で私が厳しく批判したところでした。

左上の表は市が決定した地域包括支援センター再配置計画です。現行はⅠ型6か所、Ⅱ型4か所、Ⅲ型3か所、Ⅳ型6か所、合計で19か所です。来年4月からは、すべてⅠ型となり、設置箇所は11か所となります。

近く市議会厚生常任委員会が開催されます。市は5月の所管事務調査以降の動きをキチンと報告し、議会の意見を聞くべきです。

いつせい街宣で安倍内閣の暴走を批判

7月25日は北陸信越ブロックの日本共産党のいつせい宣伝行動日でした。

三和区でお昼を食べたのち、2人の仲間とともに清里区、牧区の7か所で、加計学園疑惑の徹底究明、共謀罪法の廃止、安倍内閣の退陣等を求める訴えをしました。

清里では家の中でずっと聴いていくくださった夫婦がありました。演説後、夫婦の方のところへ挨拶に行くと、「安倍さんの政治はもうダメだね。(共産党書記局長の)小池さんの話を聞いたばかりだ。頑張ってくださいない」などの声を寄せていただきました。また、軽トラのスピードを落とす私に挨拶してくださいる方もありました。牧では家からわざわざ出てきて、話を聴いてくださる女性の姿がありました。ありがとうございました。



【リョウブ】リョウブ科の落葉小高木。漢字で「令法」と書きます。いま、道ばたなどで白い花を咲かせています。花には芳香があり、蜂やチョウからモテモテです。若芽も花も食べることができますよ。22日撮影。



清里では家の中でずっと聴いていくくださった夫婦がありました。演説後、夫婦の方のところへ挨拶に行くと、「安倍さんの政治はもうダメだね。(共産党書記局長の)小池さんの話を聞いたばかりだ。頑張ってくださいない」などの声を寄せていただきました。また、軽トラのスピードを落とす私に挨拶してくださいる方もありました。牧では家からわざわざ出てきて、話を聴いてくださる女性の姿がありました。ありがとうございました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1817 2017.7.30**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら  


# 春よ来い

## 第四六五回

### 母の手を引き

先日は母の眼の定期検査でした。雨降りが何日か続いて、ようやく落ち着きを取り戻してしまいました。午前九時頃、母を軽乗車に乗せました。予約の時間は一〇時半。余裕を持って病院へと車を走らせました。母は車に乗ると、いつも私に話かけてきます。この日は最初、田んぼの様子や原之町商店街の街並みなどに目を向けていたが、しばらくは何も語りませんでした。

口を開けたのは六万部を過ぎ、町田に入ってから。「トシコさん、ここだったねかな。どうしていなる」と訊(き)いてきたのです。

「おへがし(大東)のか?」

「うん、おへがしの……」

「特養に行つてなるよ」

「そいがか」

大東(屋号)は、三十数年前まで住んでいた尾神のわが家から少し下ったところにあった家ですが、まだ嫁に行く前のトシコさんやタツコさんなどと母が付き合っていたことを初めて知りました。

車が頸城区から下吉野に入る橋の一步手前で、母は急に話題を変え、車に乗って酔つたときの話を始めました。

「とちやに乗せてもらったとき、ここで、おれ、具合悪くなったがど」

それから、車酔いした過去のことを思い出したのでしよう。婦人会の旅行に行ったときのこと、三十数年前、高田のある整形外科に五ヶ月間も入院した後、お世話になった板山の伯母にお礼として新しい布団を持つて行ったときのこと、その布団を購入したとき、くじ引きで一等賞をもらったことなどを次々と語りました。

病院に着いたのは九時半過ぎです。玄関のところで母を降ろし、駐車場に車を置いてきました。その後、診察検査の手続きを

すませ、エレベーターに乗って二階の眼科へと進みました。その間、ずっと母の手を引きながら歩きました。

通院を始めた最初の頃は、母とはいえずき手をつないで歩くのはちよつぱりはずかしい気持ちがありました。でも最近はずつかり慣れました。母も歩くときに手を引いてくれるようにと私の手をさがします。

検査は受付の手続きをしてからすぐ行われ、診察は予約時間どおり一〇時半からでした。担当のお医者さんから、「おばあちゃん、どうですか具合は」と尋ねられ、母が「なんともないです」と答えたのには笑つてしまいました。すつかり耳が遠くなった母ですが、お医者さんの薬の説明には、すべて「はい」と答えていました。

この日、検査、診察などすべてが終わったのは午前一時過ぎでした。車に再び乗り込むと母は、「『あるるん』に行かんか」と言います。地元の商店でアイスクリームなどを買うことがあつても、遠いところで買物をするチャンスはめつたない母です。母の求めに従いました。

JAの農産物直売所、「あるるん畑」は大勢の人で賑わっていました。ここでも母の手を引きながら買物をしました。

「なんでも買つてもいいよ」と私が言ったこともあつて、母はトウモロコシ、ピーマン、干しいたけ、赤飯、一口メロンなど二千四百円ほど買いました。買物が大好きな母ですから、少しは喜んでもらえたかなと思つています。

九三歳の母はいま一週間に二回、デイサービスに通っています。あと、外に出るのは地元で買物をするときくらいです。歩くことができる今のうちに、母をお茶飲みや買物に連れて出歩きたいと思つています。もちろん、母の手を引きながら。

## 戦没者合同法要で平和展の訴え…土橋副市長

吉川区戦没者合同追悼法要が15日、行われました。会場となった福正寺には来賓を含め50~60人の人たちが参列しました。今回は吉川町時代から通算で63回目の法要です。

追悼の言葉をのべたのは吉川区遺族会会長、新潟県知事(代理)、上越市長(代理・土橋副市長)の3人。このうち、土橋副市長は、市長の挨拶文を代読した後、「少し時間をいただきたい」と前置きし、今日12日から小川未明文学館で始まっている「平和展」を紹介し、見てほしいと呼びかけました。

感動したのは、土橋副市長がその「平和展」で展示されている子どもの作文(慰問文)を読み上げたことです。その作文は旧諏訪村の子どもが中国北部(満州)で戦っている兄に宛てて書いたものでした。雪降るふるさとで出征したキョウダイのことを心配する家族の思いが伝わっていました。同副市長は、最後に、「子どもたちが2度とこのような手紙を書くことのないように」と訴えました。右上の写真は法要の様子です。

### 私も「平和展」へ

17日、私も小川未明文学館



(高田図書館内)に寄り、平和展を見してきました。15日の吉川区戦没者追悼合同法要で土橋副市長が紹介された「諏訪村だより」の中の慰問文や直江津捕虜収容所警備員が戦犯として処刑される前に家族に宛てた「最後の手紙」をじっくり読んできました。

また、旧吉川町議会や上越市議会でも私が繰り返してあげてきた戦争体験文集の中のいくつかも読み返しました。小池ユシさんの文章、何回読んでも心打たれます。



## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月19日(水)	7月26日(水)
上越南消防署	0.050	0.033
上越北消防署	0.043	0.057
新井消防署	0.053	0.043
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.057	0.053
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.057	0.047